

特集・東アジア研究の新たな視座…過去、現在、未来

「総合コメント」

東アジアの調和的な未来の構築

張 華

冷戦の終結に伴い、古い秩序は幕を下ろし、新しい国際秩序はまだ形成されず、世界は常に変化をしていく時期に入った。グローバル化、世界経済一体化及び東アジア各国経済の迅速な発展が、東アジアを多角的な協力の基で、もっと広く、もっと全面的で、もっと高いレベルへの発展を可能にする。

東アジアは国際社会が注目する地域の一つである。冷戦終結後、東アジアの国際政治構成を影響する各国の関係は比較的に平穏な状態にある。しかし、全体よして東アジア地域には国家間の対抗、軍備競争の激しさ、潜在する軍事衝突などの各国の関係を影響する不安定要素が未だ存在する。

今、世界のテーマは平和と発展である。地域安全はその地域の政治安定と経済の持続的な発展の主な前提である。東アジア地域にはまださまざまな問題と不安定な要素が存

在するが、全体的に緩和の方向に向かっている。

歴史の記憶は過去への認識の問題でもあり、如何に未来に直面するか肝心でもある。東アジアの歴史はお互いに内在しており、分離できないため、狭隘な国別歴史（国ごとに歴史を分別にて記述）という制限、狭隘な民族主義意識を超えることが必要な歴史研究である。東アジア問題は解決できない問題ではない。お互いを充分に理解した上で、古い固有観念を改め、必ず真理を追究しなければならない客観的精神で歴史を対し、有効的なコミュニケーションをとれば歴史問題の鍵がきつと見つかる。歴史は忘れてはいけない、但し容赦することはできる。歴史記憶問題でみんなの争論になるのは過去である、但し本心に心配しているのは未来、未来の平和である。東アジア各国間の歴史認識に対する問題に関して、我々は民族間の恨みを越え、東アジア未来の平和と発展の立場から問題をみるべきであり、

常に平等と理性なる精神を保つべきである。

『和解』にはまず以下の二点が必要

一、本国国民の記憶と感情を尊重しつつ、他国の国民の記憶と感情も尊重する。両者に解決困難な抵触がある場合、一般的に、根本的『真理』を尊重する前提の下、できる限り緩和あるいは最小限にする。

二、歴史宿怨に正しく向かい、正しく対処し、現在と未来を重視し、歴史真理の核心（大枠ではなく）と緊急性（副次的ではなく）のある現在の国家利益が問題解決の最も重要な原則である。

東アジアにはすでに良好な発展基礎がある。東アジアの発展のポイントは離散を抜け出して、内在パワーの有効的な整合を実現し、全体区域の有効な優勢を形成すること。共に東アジア社会発展の基礎になる東アジア共同体を模索するのが最も良い道である。

東アジア共同体（又は アジア共同体）は地理的に隣接した各国が長期的な相互協力と一体化で密接な共同体を形成するもの。この共同体は共同利益と地域承認の基で成立するべきであり、決して排他的集団ではなく、また区域外の国家は対象にならない。地理的位置が近く隣接していることは東アジアが協力する上での先天的な優勢であり、地域一体化の前提条件でもある。東アジアは文化的にも同じもしくは類似している部分があり、このような文化の類似は東アジアの協力がスムーズにいける基礎である。東アジ

ア国家と地域は経済的に共同する利益が多く、これは東アジアがお互いに協力する主な原動力である。共同体が成立できるか、そしてどのような共同体が成立できるかについて、決定的な要素を持っているのは、この地域で経済的実力が最も強い三カ国—中国、日本、韓国—間の協力関係にある。

如何にお互いに理解し、お互いに信頼する上で東アジア各国の協力関係を強固し発展させるかは各国の国民の重要且つ緊迫した課題である。より理解と信頼を深めるため、まずお互いに相手の文化の存在と相手文化の価値を尊重し、次に各国国民の付き合いとコミュニケーションを強化しなければならぬ。

平和的な地域国際秩序を立てるのは東アジア各国の共通の目標である。よって平和的に北朝鮮の核問題を解決することは東アジア各国国民と国際社会が注目する問題である。

北朝鮮の六カ国協議からの撤退の発表で国際社会、特にアメリカ、日本、韓国、中国、ロシアなどの国が強烈な反応を示したが、六カ国協議は朝鮮半島問題を解決する唯一の経路である。よって、北朝鮮側は結局多角的な調和を選択するのである。朝鮮半島問題は数ある大国の核心的な利益に及び、終始国際社会の敏感な神経に触れる。今ある複雑な諸問題及び数々の事件をどのように収拾するかは、関連国家が真面目に考慮すべき核心的な問題である。アメリカのオバマ大統領は以前、アメリカは六カ国協議という形

式を通じて東アジアの安全と安定を維持することに同意すると発表。そして、「六カ国協議は朝鮮半島の核放棄と地域の緊張事態を緩和することに土台を作った」と称賛。今、対立双方は緊張事態であり、六カ国協議の再開で直ちに問題の実質的突破を成し遂げることは期待できない。

朝鮮半島の「核放棄」と核の拡散を防止する問題以外にも、「平和なメカニズム」の（建設）、関連国家との関係の正常化、経済協力の促進及び朝鮮半島統一をはかるなどの問題は、唯一六カ国協議で解決できる。一方で、朝鮮半島の無核化の実現は六カ国協議の最終的な目標ではない。それは東アジアの安全枠組みづくりの第一歩にすぎない。

二一世紀の東アジア国際関係を展望すると、平和と発展であり、これはさらに成熟し、さらに密接になる。「平和友好、互恵関係、長期的な安定、相互的に依存」の原則の下、東アジア各国の関係は健全に発展すると信じる。